

佳作 母を幸せにしたいという願い



アフサンヌル ムティアル リズキ
AHSANNUR MUTIAR RIZKY
国 籍 インドネシア
職 種 電子機器組立て
実習実施者 テクノセンター株式会社
監 理 団 体 TWG 外国人育成就労協同組合

私が二十歳で日本に実習に行くことを決めた理由は、将来のためにたくさんの経験を積み、家族を支える力をつけたいと思ったからです。特に、母がもう生活のために苦しい思いをしなくてもすむように、私が支えられるようになりたいと強く願っています。母の笑顔を見るたび、自分も強くなりたいと心から思います。母が安心して暮らせる姿を想像すると、胸が熱くなります。

私は兄と二人きょうだいです。三年前に高校を卒業しました。友だちのように大学に進学せず、私は日本語を勉強する道を選びました。そして、日本で実習をして働き、家族の生活を支援したいと考えたのです。働きながら学ぶことの大変さを知っていますが、それ以上に得られる経験に期待しています。

私たち家族はもともととてもあたたかい家庭でした。いつもいっしょに食事をしたり、話す時間を大切にしたり、礼拝もいっしょにしていました。しかし、父は私たちを残して家を出て、新しい家庭を選びました。そのとき、母は自分のふるさとの町に帰ることを決め、私と兄を連れて家のすべてを持って戻ったのです。

私はそのときまだ小さく、小学校二年生くらいでした。兄はすでに中学生で、引っ越しを前に泣いていました。母が泣いているところを見たことはありませんでしたが、心の中でどれほどつらかったかを感じていました。大人になった今も、なぜあのとき状況が分からなかったのか、なぜ父に怒れなかったのかと思うと、とても悔しい気持ちになります。

引っ越しの後、私たちは新しい生活を始めました。新しい学校に入り、新しい友だちと出会いました。それまで私たちの生活を支えていたのは父でしたが、引っ越してから母が一人で家族を支えなければなりません。母は毎日三軒から四軒の家を掃除する仕事をして、私たちを養っていたのです。本当は、母がこんなに辛い思いをしてまで、私たちを育てる必要なんてなかったはず。それでも母は弱音を一度も見せず、私たちを守ってくれました。

もし父が私たちを置いていかなければ、母はこんなにも苦勞をしなくてもすんだのにと感じていました。

こうした経験から、私は日本で実習をして働き、母が苦しまなくてもよい生活をつくりたいと思いました。母が欲しいものを何でも買ってあげられるように、お金をためたいと考えています。そして、母が年をとったとき安心して幸せに暮らせるように支えたいのです。

私の目標は、母がもう他人の家で働かなくてもよく働くことです。母が一生苦しまなくてすむように、家族を守る力をつけるために日本での実習に全力で取り組みたいと思います。どうか神さまが、私が母を幸せにできるような、いつも見守ってくださいますように。